

「めぐりめぐって教え継がれる法華經の福德」

法華經を聞いて隨喜し、心から歸依するならば大きな福德を得るが、もしその人が教えを聞いたのち父母や友達のために教えを伝え、聞き終わって隨喜し、また伝え：

めぐりめぐって最後五十人に至り、一詩句を聞いて隨喜する人の福德はさらに多い。

この人の得る福德は、例えられないくらい最初の人に勝っている。

このように展転して教え継がれた一詩句でも聞くなら、その人の福德は計り知れないほど多い。まして法会などにおいて親しく聞く人の福德の多さは言うまでもない。



最後第五十聞一偈隨喜

最後の第五十の 一偈を聞きて隨喜する

是人福勝彼不可為譬喻

この人の福は、彼に勝れたること 譬喻ること為べからず。

如是展轉聞其福尚無量

かくの如く展転りて聞く その福なお無量なり。

何況於法會初聞隨喜者

何に況や法会において 初めて聞きて隨喜せん者をや。

(妙法蓮華經隨喜功德品第十八)